

「第23回風工学シンポジウム」の報告*

藤部文昭*¹・小林文明*²・竹見哲也*³・菅原広史*⁴

1. 風工学シンポジウムの概要と開催経緯

風工学シンポジウムは、日本気象学会、日本風工学会、日本建築学会、日本鋼構造協会、土木学会の5学協会の共催により、隔年で12月初めごろに開かれる。各学協会が輪番で幹事学会になり、シンポジウムの運営に当たることとなっている。シンポジウムの発表論文(2段組で6ページ)は公募されて査読が行われ、採択されれば「風工学シンポジウム論文集」に掲載される。また、第17回シンポジウム(2002年)以降の論文はJ-stageに登録されている(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kazekosymp/-char/ja/>)。

第23回風工学シンポジウムは、気象学会を幹事学会、風工学会を副幹事学会として、2014年12月3～5日に東京大学山の上会館で開催された。気象学会は2013年春に前幹事学会の土木学会から事務引き継ぎを受け、運営委員会と査読委員会を立ち上げて準備を進めた。運営委員会は藤部を委員長、竹見を幹事とし、査読委員会の委員長と幹事(後述)および共催学協会から1人ずつ選任された運営委員を含む計8人で構成してシンポジウムの企画運営に当たった。また、気象学会の渡辺志伸氏が事務局を担当した。査読委員会は小林を委員長、菅原を幹事とし、共催学協会から各3人ずつ選任された査読委員を含む計17人で構成して論文の査読審査とプログラム作成等を担当した。なお、18の学

協会から協賛を受けた。

運営委員会は2013年末に各学協会へ論文募集を依頼し、6月24日に投稿を締め切った(当初の締め切り日が2週間延長された)。投稿された論文は98件であった。これらについて、査読委員会が1件あたり3人の査読者を依頼して採否を判定した結果、6件の論文が不採択になった。また、2件の論文が著者によって取り下げられた。これ以外の90件の論文は、査読結果に基づく改稿を経て論文集に掲載され、シンポジウムの席で発表(すべて口頭発表)された。シンポジウムの参加者は、発表者90人のほか、一般参加者80人、学生聴講者13人の、計183人であり、発表件数・参加者数とも前回(2012年12月)を上回った。

以下、プログラムと薫風賞について簡単に紹介する。プログラムなどの詳細はWebページ<http://met.soc.jp/kazesympo2014/>に掲載されている。

2. シンポジウムのプログラム

プログラムは下記のようにになっていた(カッコ内は掲載論文数)。

1. 風の性質 (4)
2. 風環境 1 (6)
3. 風環境 2 (6)
4. 風力エネルギー (8)
5. 風災害 (9)
6. 基本断面の空力特性 (5)
7. 建造物の風圧力 1 (5)
8. 建造物の風圧力 2 (8)
9. 建造物の応答・制御 (9)
10. 計測方法 (5)
11. 耐風設計 (9)
12. 数値解析 1 (8)
13. 数値解析 2 (8)

* Report of the 23rd National Symposium on Wind Engineering.

*¹ (連絡責任著者) Fumiaki FUJIBE, 気象研究所 (現: 首都大学東京).
ffujibe.bs@gmail.com

*² Fumiaki KOBAYASHI, 防衛大学校.

*³ Tetsuya TAKEMI, 京都大学防災研究所.

*⁴ Hirofumi SUGAWARA, 防衛大学校.

© 2015 日本気象学会

この構成は、前回までとほぼ同じである。発表時間は1件あたり14分（講演10分、質疑4分）であった。

今回、発表件数や参加者数が増えたことは運営を担当した者として喜ばしい。ただ、気象分野の発表が少ないのはやや寂しい気がした。「風工学」という言葉は、気象学と関連が薄い印象を与えるのかも知れない。しかし、シンポジウムで発表される研究のテーマは、竜巻のような風災害に直結する現象だけでなく、大気乱流や局地循環など多岐にわたる。また、近年は気象分野でもLES（Large Eddy Simulation）を使った微細なシミュレーションが行われており、構造物周囲の気流に対する数値モデリングなどは、気象研究者にも興味を持たれるのではないかと思う。次回のシンポジウムは建築学会を幹事学会として2016年に開かれる予定であり、気象学会員各位の積極的な参加を期待するところである。

3. 薫風賞の授与

第20回シンポジウム（2008年）の際に「風工学シンポジウム論文賞」が創設され、毎回数編の優秀な発表論文に授与されてきた。第23回シンポジウムからは、これを若手研究者の顕彰に重点を移した「薫風賞」に改め、優秀な論文を発表した45歳以下の研究者に授与することとなった。その結果、菅原広史（防衛大学校）、喜々津仁密（建築研究所）、荒木伸哉（京都大学大学院）、松宮央登（電力中央研究所）、山口貴之（東北大学大学院）の5氏が受賞者として選ばれ、2015年3月10日に気象学会事務室で授与式が行われた。

謝 辞

共催学協会の運営委員・査読委員をはじめとして、関係各位の努力によりシンポジウムを成功裡に終えることができました。また、会場の予約に当たって東京大学の新野 宏教授および石原 孟教授のご協力を頂きました。ここに深く感謝致します。